



# 中山間地域における多様な事業を導入した地域振興

はちぶせ

なかつがわし

## 八布施活動組織（岐阜県中津川市）

- 当地区は、岐阜県東部に位置し、周囲は標高700～1,200mの山地が広がる自然豊かな地域である。
- 農業者の高齢化や減少により、地域営農の維持が危ぶまれる中、農事組合法人「はちたか」を設立し、草刈りなどの農地維持活動について、集落全員参加型の共同活動を実施している。その結果、集落行事にもほぼ全員が参加するなど、地域の絆が保たれている。
- イノシシやシカなどの鳥獣被害が増加しており、地域ぐるみで電気柵等の設置と日常管理を実施するとともに狩猟免許を取得し、イノシシを捕獲する取組も行っている。

### 【地区概要】

- ・取組面積 28ha（田28ha）
- ・資源量 開水路20.0km、農道6.0km
- ・主な構成員  
農業者、農事組合法人、自治会、女性会、子供会等
- ・交付金 約2.3百万円（H29）

〔 農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

### 活動開始前の状況や課題

- 当地区は、中山間地域に位置しており、過去においては、水田に引く水をめぐって水喧嘩が絶えなかった。
- 農業者の高齢化や人口減少に伴い、集落の全戸が参加する農事組合法人「はちたか」を設置。
- 水田や用水路などの地域資源の保全はもちろん、老朽水路のパイプライン化や基盤整備未実施ほ場の整備が課題。
- 獣害被害も増加しており、既設の電気柵の日常管理に苦慮。



（農）はちたか設立



電気柵設置と保守

### 取組内容

- 地域農業を維持するため、様々な事業に取り組む。
  - ・多面的機能支払交付金  
草刈り等の農地維持活動や施設補修
  - ・中山間地域等直接支払交付金  
湿田圃場の改良工事。障害木や竹の除伐
  - ・県営経営体育成基盤整備事業  
用水路のパイプライン化や基盤整備
  - ・水田法面畦畔管理安全省力化推進事業  
傾斜地対応型自走式法面草刈機の導入
- 地域ぐるみで電気柵の設置と日常管理を行うとともに、狩猟免許取得者（4名）によるイノシシの捕獲を実施。シカ対策として、高さ1.8mのワイヤメッシュの設置も実施。
- 子供会の活動として、生きもの調査を実施し、地域の自然を学習する場を提供。



ワイヤメッシュ設置



生きもの調査

### 取組の効果

- 地域の共同活動が浸透したことにより、農地の利用集積が進行。（農事組合法人に約8割を集約）
- 野菜（ブロッコリー）栽培による女性の農業への参画を推進。
- 鳥獣害対策の研修や講習など積極的に参加することで被害を少しでも減らそうと努力した結果、以前より減少。
- 捕獲したイノシシを業者に解体してもらい集落行事の際、焼肉や鍋にして楽しむことで、地域コミュニティが活性化。
- 大学生との交流を開始。（H29年度は明治大学（4名）が来訪し、草刈り等を実施）



ブロッコリーの手入れ



集落行事の風景



# 防災・減災力の強化の推進

さまききょうど

やおつちょう

## 逆巻郷土を守る会（岐阜県八百津町）

- 本地域は、農業者の減少と高齢化が進んでいることから地域農業を維持していくためには、地域住民と協力した農地、農業用水路、農道の保安全管理が必要であった。
- 平成22年7月、ゲリラ豪雨による土砂災害を経験したことで地域住民の防災意識が高まり、農業関係者だけでなく、非農家の住民と協力して農業用排水路等の泥上げ清掃活動を行っている。
- 本活動への参加により、地域防災に対する意識向上や減災力の強化に繋がっている。

### 【地区概要】

- ・取組面積 6ha（田3ha、畑3ha）
  - ・資源量 開水路2.0km、パイプライン1.4km、農道2.0km
  - ・主な構成員  
自治会、農業者、子供会、改良組合
  - ・交付金 約0.2百万円（H29）
- 〔 農地維持支払  
資源向上支払（共同） 〕

### 活動開始前の状況や課題

- 急峻な山から木曾川へと流れる、長く高低差のある用排水路の管理には人も時間も多にかかると、必要最低限の管理に留めていた。
- 平成22年の豪雨により町全域で水路の破損や流入した土砂による水路の閉塞等が発生。当地区では排水されなかった水により家屋への浸水被害を受けた。



被災状況（H22）



### 取組内容

- 一年間に、山から川へと繋がる水路すべての点検及び泥上げを行う。
- 農業者のみが使う水路という認識ではなく、減災のために必要な水路という意識を持ち、非農家を含めた地域住民全員で共同活動を行っている。



上流から下流までの水路の管理

### 取組の効果

#### 【減災効果】

平成22年以降も数多くのゲリラ豪雨、台風等が発生しており、平成23年の台風においても水路への土砂の流入、閉塞が確認されたが、共同活動として台風通過後に現地を見回り、泥上げ活動を行うなど、迅速な対応をとる事が出来た。

平成24年度以降も共同活動に継続して取り組み水路が良好に維持管理されている賜物か、現在は大きな被害は確認されていない。



上流から下流までの水路の管理



# 環境保全活動を通じて地域企業と交流

ひがしざかい かりやし  
東境地域資源保全隊 (愛知県刈谷市)

- 本地域は、大型郊外店の進出等急速に都市化が発展しており、非農家の割合が9割を超える都市近郊の農業地域。県営経営体育成基盤整備事業(平成16~21年度)を契機に維持管理体制の再構築を促した組織づくりを図り、集落営農を核とした地域農業の継続的な発展を地域一体となって目指している。
- 平成29年8月に地域企業トヨタ車体㈱が主催し、外来種駆除活動や対策を行う人材の育成と、水辺の生き物に関する環境学習を目的としたミシシippアカミガメ駆除を開催。愛知県生態系ネットワーク協議会、小中学生、地域住民、研究者、環境省、刈谷市、当保全隊の産・官・学・民が一体となり実施。
- 地域企業デンソーと共催で清掃活動を実施。(デンソーハートフルデー、DECOウォーク刈谷)
- 平成19年度からクリーン大作戦を展開し、地域の約30の各ボランティア団体、企業、小中学校が参加。地域に根付いた活動となり、年々参加者は増加。ポイ捨てが目に見えて減っている。

## 【地区概要】

- ・取組面積 63 ha (田 63 ha)
- ・資源量  
開水路 13.0 km、パイプライン 13.3 km  
農道 11.2 km、ため池 6カ所
- ・主な構成員  
農業者、自治会、同志会、  
土地改良東境管理区
- ・交付金 約4百万円(H29)  
〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

### 土地改良管理区が中心と なって維持管理体制の構築



年間活動計画作成



水路の泥上げ



ため池周辺の草刈り

### 産・官・学・民が一体となった 環境保全活動の取組

#### アカミガメの駆除 (生態系保全・水辺環境学習)



事前打合の状況



罠の設置状況



カメの捕獲状況



捕獲されたアカミガメ

#### 捕獲したカメ

- アカミガメ 54頭
- ニホンイシガメ 1頭
- ニホンスッポン 1頭

### クリーン大作戦に 約30団体660名が参加



中学生分別作業



クリーン作業状況



アンケート調査



団体参加状況



アンケートでは、約6割の方が参加経験あり、約8割の方が次回も参加したいと回答。



# 水田魚道の設置を通じた活動の展開

えのきまえ あんじょうし  
榎前環境保全会 (愛知県安城市)

- 本組織は、平成19年度から農地・水保管理支払に取り組んでおり、近年の環境配慮に係る意識の高まりなどを受けて、愛知県農業総合試験場等との連携のもと、地区内の水田に水田魚道及びカエルの脱出装置を設置。
- 水田魚道と魚道を設置した観察水田において、生物の観察や伝統的農機具を用いた農作業体験など、子どもが農業や環境の大切さを再認識し、地域や農業への理解を深める活動を実施。
- また、地元の保育園・子供会等との連携のもと地域資源の保全活動を実施しており、景観保全のために植栽したヒマワリを活用したイベント等を開催。更に、地元農協は、水田魚道を設置した水田で栽培した減農薬米を「どじょうの育み米」として販売。

## 【地区概要】

- ・取組面積 69ha(田65ha、畑4ha)
- ・資源量  
開水路 13.0km、パイプライン14.6km、  
農道 8.5km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、町内会、  
榎前農用地利用改善組合 等
- ・交付金 約5百万円(H29)  
農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化)

## 研究機関との連携による 水田魚道等の設置



- 水田の生物多様性を確保するため、構成員、耕作者等の関係者が話し合い、水田と排水路を結ぶ水田魚道を設置
- 水田魚道は、愛知県農業総合試験場において開発されたものであり、保全会では、遡上する魚類等の観察・調査を週2回程度の頻度で定期的実施
- 生態系の保全に欠かすことのできないカエルを保護するため、カエルの脱出装置を水路に設置

## 水田魚道を活かした活動



- 水田魚道での生き物調査を実施する事で環境に対する意識を醸成



- 魚道を設置した水田を観察水田としても活用

- 観察水田で伝統的農機具を用いた農業体験を実施



## 更なる活動の展開



- 水田魚道を設置した水田で節減対象農薬を地域慣行の5割低減して栽培した米を「どじょうの育み米」として販売



- また、地元製パン工場とも連携し、米粉パンとしても販売



- 多様な主体による取組  
(中学生によるゴミ拾い)

- ヒマワリの植栽  
(活動組織が主体となつてヒマワリ祭りも開催)



### みどり 小まきし おおくさ水土里の会 (愛知県小牧市)

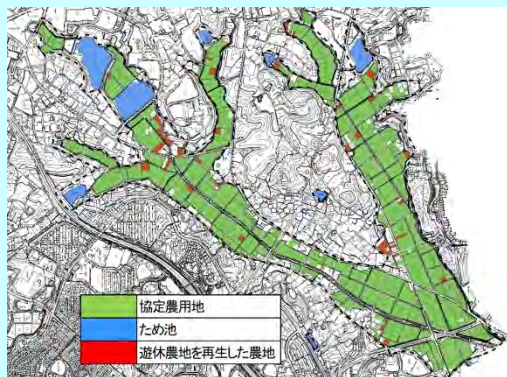
- 愛知県北西部の混住化が進む都市的地域の水田地帯。点在する遊休農地から隣接農地への雑草拡散等により、営農者の生産意欲が低下し、遊休農地の増加が深刻化。
- 遊休農地の解消・防止のため、平成19年度から遊休農地の発生状況把握や草刈り等を実施し、現在は、平成19年度に3.7haあった遊休農地はすべて解消した。
- 近隣の営農者に遊休農地の耕作を働きかけ、これらの農地では、平成26年度は水稲9トン、野菜(芋類含む)44トンが生産された。(試算生産額 10,831千円。)
- 本活動への参加者の半数近くは非農業者が占め、地域で環境保全に取り組む意識も向上。

### 【地区概要】

- ・取組面積 94ha (田85ha、畑9ha)
- ・資源量  
開水路4.2km、パイプライン 17.3km、  
農道 21.0km、ため池9箇所
- ・主な構成員  
自治会、農業者、子供会、婦人会
- ・交付金 約4百万円(H29)  
〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同) 〕

### 活動開始前の状況や課題

- 混住化が進む都市的地域の水田地帯であり、遊休農地が点在して発生。
- 遊休農地に繁茂した雑草がスズメの営巣地となり、水稲の食害が発生。また、雑草種子が飛散し、隣接農地にも繁茂。
- これらにより、地域の営農者の生産意欲が低下し、遊休農地の増加が深刻化。



### 取組内容

- 平成19年度から遊休農地の発生状況の把握、解消の取組を開始。
- 遊休農地の解消・保全管理のため、発生場所の現地調査や土地所有者の情報収集、草刈等を実施。
- 遊休農地の活用のため、近隣の営農者に、耕作を行うよう働きかけ。



遊休農地の草刈



解消された遊休農地

### 取組の効果

#### 【遊休農地の解消面積】

平成19年度:3.7ha ⇒平成24年度以降:0ha



#### 【遊休農地の活用状況】

- ・作付面積 (平成26年度)  
水田1.9ha、畑1.6ha、樹園地0.2ha
- ・生産量・試算生産額 (平成26年度)  
水稲9トン(2,103千円)  
野菜(芋類含む)44トン(8,728千円)  
※愛知県の平均的な流通価格より算出

#### 【遊休農地発生防止の活動状況】

- ・参加者数 (平成26年度)  
48人(農業者27人、非農業者21人)
- ・活動は、非農業者が半数近くを占め、地域で環境保全に取り組む意識が向上。



営農が再開された水田



# ため池を中心とした非農家との共同活動

おおいけ おおぶし  
奥池地域保全隊（愛知県大府市）

- 大府市は、名古屋市に隣接しており、たまねぎ、キャベツなどの野菜、ぶどう、梨などの果物、畜産を中心とした都市近郊型農業が営まれている。
- 本地区においては、住宅団地の造成等に伴い非農業者が増加傾向にあり、農業者と非農業者とが連携した地域資源や農村環境の保全活動の実施体制の構築が課題であった。
- このような中、地区内のため池に親水公園が整備されたことを契機として、活動組織を立ち上げ、地域共同による地域資源や農村環境の保全活動を開始した。

## 【地区概要】

- ・取組面積 45ha（田14ha、畑31ha）
- ・資源量  
開水路9.0km、パイプライン7.4km  
農道9.9km、ため池1箇所
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、自治会、土地改良区、まちづくり協議会、老人会
- ・交付金 約2百万円(H29)  
〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同) 〕

## 地域の状況



ため池(奥池)

- 名古屋市の隣接地域であり、都市住民の流入が増加している状況。
- 地域の環境保全を図るため、農業者と非農業者が連携した保全管理体制の構築が課題。
- 水環境整備事業によりため池の親水公園が整備され、これを契機として地域共同による地域資源の保全活動を開始。

## 主な取組内容



ため池周辺の草刈り



ため池の生き物調査

- 農業者のほか、活動組織の設立以前から地域の環境保全等の活動を行っていた「まちづくり協議会」、自治会等を構成員として活動組織を設立。
- 農業者と非農業者では活動に参加できる時間が異なるため、地域全体の活動を行う際には調整が必要となるものの、ため池周辺の草刈りといった基礎的保全管理活動のみならず、ため池周辺における植栽や生き物調査等の農村環境保全活動のほか、地域内の農家、非農家および都市住民との間の交流活動を活発に行っている。



# 世代を越えたため池、農業用水を守る取組

にごりいけ おわりあさひし  
濁池地域環境保全の会（愛知県尾張旭市）

- 当会の位置する尾張旭市は、名古屋市に隣接する住宅都市で、農家数は総世帯数の1%程度。江戸時代から伝わる農業用ため池の「濁池」や用水路の江ざらいは4つの農業者組合で行い、農地周辺の草刈り等は地元自治会やボランティアグループが実施してきた。濁池を次世代に伝えていきたいとの地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携して活動組織を設立。
- 児童を対象に、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とした出前講座のほか、濁池受益地の水田での田植えや稲刈り等の農業体験を実施するなど、子供たちに農業用水の大切さを伝えている。
- さらに多くの学校や地域住民との連携を深めるため、公民館や市民祭でのパネル展示等の広報活動に積極的に取り組んでいる。

## 【地区概要】

- ・取組面積 12ha(田8ha、畑4ha)
- ・資源量  
開水路6.0km パイプライン1.2km、ため池1箇所
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、農業者組合、自治会、JA、市民ボランティア団体、土地改良区
- ・交付金 約1百万円(H29)  
〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

## 「濁池」や農業用水を中心とした活動

### 濁池の保全活動

- ・「濁池を次世代に伝えていきたい」という地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携し草刈等の保全活動を実施している。

### 小学校へのお出前講座

- ・自治会等がスクールボランティアとして色々な学校行事に関わっていたこと、平成18年に愛知県が実施した「学童によるため池調査」で、児童から濁池に対して「水をきれいにしてほしい」、「ゴミをなくしてほしい」などの意見が寄せられていたことから、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とし、児童を対象に出前講座を開催。
- ・木曾川上流にある牧尾ダムから木曾川を経由して濁池に通水されるまでの愛知用水の役割や水の大切さについて講義。



濁池の草刈作業



小学4年生を対象に行った出前講座

## 小学生の農業体験



春の田植え体験の様子



秋の稲刈り体験の様子



## 子供たちや地域住民に活動等を紹介

- ・地区公民館や市民祭等でパネル展示を行うなど積極的に広報活動に取り組んでおり、さらに多くの学校や地元の人々と連携をしていきたいと考えている。

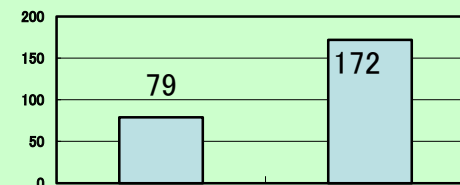


地元の公民館祭に出展



農業祭に出展

- ・出前講座については、平成19年度に小学4年生を対象に実施。20年度は校長が活動組織に出前講座の開催を呼びかけて、4年生と5年生を対象に実施。5年生は2年目の受講であり、水源涵養などより高度な内容の授業を受けた。



平成19年度 平成20年度  
出前講座受講学童人数(人)の推移



# 「三世代交流水田での米づくり」で住民交流

## きたこまつ よっかいちし 緑ゆたかな北小松をまもる会 (三重県四日市市)

- 三重県四日市市の北小松町では、地域住民の世代間の交流を深めたいとの思いから、平成17年より「三世代交流水田」での米づくりを実施。
- 平成19年に農地・水・環境保全向上対策に取り組むに当たっても、この三世代交流水田での米づくりを農村景観向上活動の「景観形成・生活環境保全」として位置付け、継続的な活動が展開されている。
- 三世代交流水田での米づくりは、地域の子供会(児童と父兄)と老人会が連携し、手植え、鎌による刈取り、足踏み式脱穀機による精米といった旧来の農法を用い実施している。
- この活動を通じて地域住民の世代間交流が深まるとともに、子供達を含む地域住民に農業や環境の大切さを伝えていきたいと考えている。

### 【地区概要】

- ・取組面積 17 ha (田17ha、畑0.3 ha)
- ・資源量  
開水路2.8 km、パイプライン1.9 km、農道11.5 km
- ・主な構成員  
農業者、農事組合法人、自治会、女性会、子供会、他6団体
- ・交付金 約1百万円(H29)  
〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同) 〕

### 田植 [5月]

子供会の児童と老人会と一緒に、昔ながらの手植えにより田植え



### 稲刈り・脱穀 [9月]

子供会の児童らが老人会の指導のもと、鎌により手刈した稲を足踏み式脱穀機により精米



### 餅つき大会 [10月]

秋の大祭で、収穫した餅米を使い交流餅つき大会



世代間交流で、豊かな農村環境と文化を伝承





# 農業用水を活用した防災力強化の取組

たきちょうせいわ

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

たきちょう

- 当地域では、立梅用水土地改良区の5集落とこれとは異なる利水からなる5集落が多面的機能支払の活動組織を構成し活動を実施。
- 立梅用水は古くから農業用水としてだけではなく、生活用水としても活用されているが、近年、異常豪雨の多発により、降雨を分散して河川へ安全に流出させる承水路としての機能も果たしている。
- 冬期には維持用水としての通水があり、年間を通して流水があることから、火災時の消火用水とするなど、地域の防災力向上に活用されている。

## 【地区概要】

- ・取組面積 700ha(田480ha、畑220ha)
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員  
農業者、営農組合、自治会、改良区、学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円(H29)

〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

## 施設の保全管理体制



水土里サポート隊  
(農家・非農家を含む12名で構成)

### 施設の 点検・機能診断



- 土地改良区の職員を中心に「水土里サポート隊」を結成し、施設の機能診断・補修や、水土里情報を活用した保全プランの作成、農村環境保全活動等、様々な取組へのサポートを実施。

## 防災用水としての役割



承水路としての機能  
(放水ゲートの操作)



立梅用水を活用した  
消火訓練

- 多面的機能支払交付金を活用した防災の取組
  - ・立梅用水を活用した消防利水
  - ・立梅用水を利用した消火訓練(消防団、住民、消防署)
  - ・消防署による水利点検(消防署と協定)
  - ・行政と連携しイベントの際に防災・啓発活動
  - ・行政と連携しケーブルTVによる防火水利情報の提供
  - ・NTTドコモ通信による立梅用水の水位水量情報の提供
  - ・改良区を通じて洪水時の雨水処理のゲート可動研修

## 今後の課題

- 防災情報と水利システム情報の連携利用により行政、消防署、消防団などの情報共有が迅速になった。今後は、広範囲な情報発信を通じた地域全体での情報共有が必要。
- 近年、自然災害等が多発していることも踏まえ、関係機関、行政と地域住民の連携により、農業用水路の防災機能について情報発信し、最大限に活用していく。



たきちようせいわ

たきちよう

## 多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

- 本地域は、以前から、地区外の大学、企業が地域資源の保全活動等に支援・協力。また、研究者と連携して、本地域をフィールドとして地域資源の保全活動の調査・検証を実施。
- これらの繋がりから、地域住民、大学、企業、行政等が協力して小水力発電施設を設置し、本交付金で発電施設の除塵や点検等の維持管理を行っている。得られた電力は、米粉等の6次産業施設や、活動における施設等の点検作業に使用する電気自動車の電源として利用。
- これらにより、H26年度は、2,800kWhの電力を発電。地区の子ども538人に対し、環境学習の機会を提供。また、自然エネルギーを活用したさらなる活動の展開を模索している。

### 【地区概要】

- ・取組面積 700ha(田480ha、畑220ha)
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員 農業者、営農組合、自治会、改良区、学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円(H29)

〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

### 活動開始前の状況や課題

- 地区外の大学、企業が地域資源の保全活動等の支援・協力団体として参加。研究者と連携して、地域資源の保全活動の調査・検証を実施。
- 農業用水を利用した小水力発電の実証研究にも取り組み、自然エネルギーを活用した多様な活動の可能性の検討を開始。



小水力発電の候補地調査（51cm落差）

### 取組内容

- 農業用水路をの落差工を活用して、小水力発電施設を設置。本交付金で発電施設の除塵や点検等の維持管理を実施。
- 電力は米粉等の6次産業施設、農業用水の管理施設や獣害対策の施設の点検等に使用する電気自動車、外灯に活用。
- また、地域の小学生を対象とした環境学習にも小水力発電施設を活用。



子ども達による小水力発電のビデオレポート

### 取組の効果

- 【小水力発電の設置】（平成26年度）
  - ・小水力発電の規模：400W
  - ・発電量：2,800kWh/年
- 【環境学習の実施】（平成26年度）
  - ・開催回数：年3回
  - ・参加児童数：538人
- 子どもを対象に、CO<sub>2</sub>発生抑制などの環境学習も実施。学習に参加した子ども538人の環境への関心を啓発。
- 今後、自然エネルギーを活用したさらなる活動の展開を模索。





たきちょうせいわ

たきちょう

### 多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

- 本地域では、従来から地域が連携して実施していた子どもの農業・農村の体験学習が継続的な取組となるよう、地元小学校と連携し、オリジナルコミュニティ・スクールとして実施。
- 本制度により、遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。地域で話し合い、学習プログラムを作成し、郷土史学習や食農体験学習を実施。
- 子どもと地域社会とのつながりが深まるとともに、地域の多様な人々の活躍の場も創出。遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止。

### 【地区概要】

- ・取組面積 700ha(田480ha、畑220ha)
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員  
農業者、営農組合、自治会、改良区、  
学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円(H29)  
農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 本組織は、旧勢和村の全10集落がまとまって、平成19年度に設立。
  - 従来から地域が連携し、子どもに農業・農村の体験学習を実施していたが、継続的に取組ができるよう、平成25年度からは、地域住民が学校運営に参画するオリジナルコミュニティ・スクール「SOCS※ おまめさんかなあプロジェクト」として地元小学校と連携して取り組むこととなった。
- (※SOCS: Seiwa Original Community Schoolの略)
- 一方、小学校周辺に遊休農地があり、獣害や火災発生のおそれがあった。



小学校の側にあった遊休農地

### 取組内容

- 小学校周辺の遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。
- 小学校と図書館、協議会、ボランティアからなる構成員(SOCSスタッフ)が話し合っ「SOCSおまめさんかなあプロジェクト」の総合学習プログラム(平成28年度は52時間)を作成。
- 地域の歴史のかんがい用水である立梅用水を題材とした郷土史学習や、大豆等の栽培から収穫、加工、伝統食づくりまでの体験学習を本プロジェクトとして実施。



水土里サポート隊の協力の下、遊休農地を解消



立梅用水を題材とした学習「水の道調べ」

### 取組の効果

- 本プロジェクトによって、子どもの農業や郷土への関心、地域社会とのつながりが深まっている。また、本組織の構成員である土地改良区や小学校、図書館等が連携することで、地域の多様な人々の活躍の場の提供にも貢献。
- (・本プロジェクトに参加するボランティアは46人中37人が女性(平成28年度)  
・年間参加児童数は延べ2375人(平成28年度))
- 本プロジェクトを通じて、遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止している。
- (・遊休農地解消面積: 35a)



大豆畑の草取り



大豆を使った豆腐やきな粉、みそ作り